

白井市立大山口小学校 「バイオ授業」実践

学校外部との連携による総合学習のカリキュラム開発

村瀬公胤

東京大学 基礎学力研究開発センター

第2回 基礎学力シンポジウム

2003年1月13-14日, 東京大学鉄門記念講堂, 東京

「バイオ授業」とは

大山口小学校
バイオ部会

5年・総合的な学習の時間

「いのちってなんだろう」

(全36時間)

リバネス

東京大学
基礎学力研究開発センター

学校 + 外部団体 + 教育学研究者の連携による

カリキュラム開発

バイオ授業ができるまで

■2003年冬 スタート

- 教育委員会とリバネスの打ち合わせ
- 実施学校・学年決定

■2003年夏 授業プラン作成・勉強会

- 授業構想
- 教材開発
- バイオ分野の学習

校内研修の体制



■ 2つの部会

- 希望選択: 各々の関心で選ぶ
- 少人数: 実質的な活動は部会ごとに

「バイオ授業」と研修(1) - 授業

■授業

- 9 ~ 2月、全3期、36時間(予定)
- 同日の午前中に5年1,2組で授業
 - 一つの授業は同じ担当者がどちらも行う
 - 2時間(または1時間)
- 教室、理科室、体育館、校外
- 担当は、担任教諭・部会メンバー・リバネス講師

「バイオ授業」と研修(2) - 研修

■授業後検討会(放課後)

■当日の授業の検討

- 子どもたちのようす、内容の理解度
- 2つのクラスでの違い

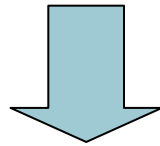
■次時以降の構想の検討

- 授業案、教材の確認・修正
- 中単元(第1,2,3期)構想の修正

授業 + 検討会のサイクルで進む

本実践の特徴(1) - 「バイオ部会」

- 少人数による自律的な活動
- 公開授業なし < > いつでもだれにでも公開
- 部会メンバー全員が行う授業
- 教師が学び手になる



授業を創り、学び続ける教師

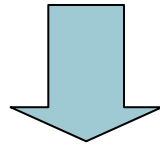
本実践の特徴(2) - リバネス

■学校との協同

- 「教育」を学び、「授業」を創るために
- 短期のイベントではない

■実験至上主義への疑問

- 実験の前後の時間をたいせつに



子どもたちとともに「科学する」

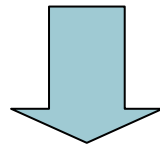
本実践の特徴(3) - 研究者

■アクションリサーチ

- 指導・講評ではない、パートナー
- もうひとつの眼

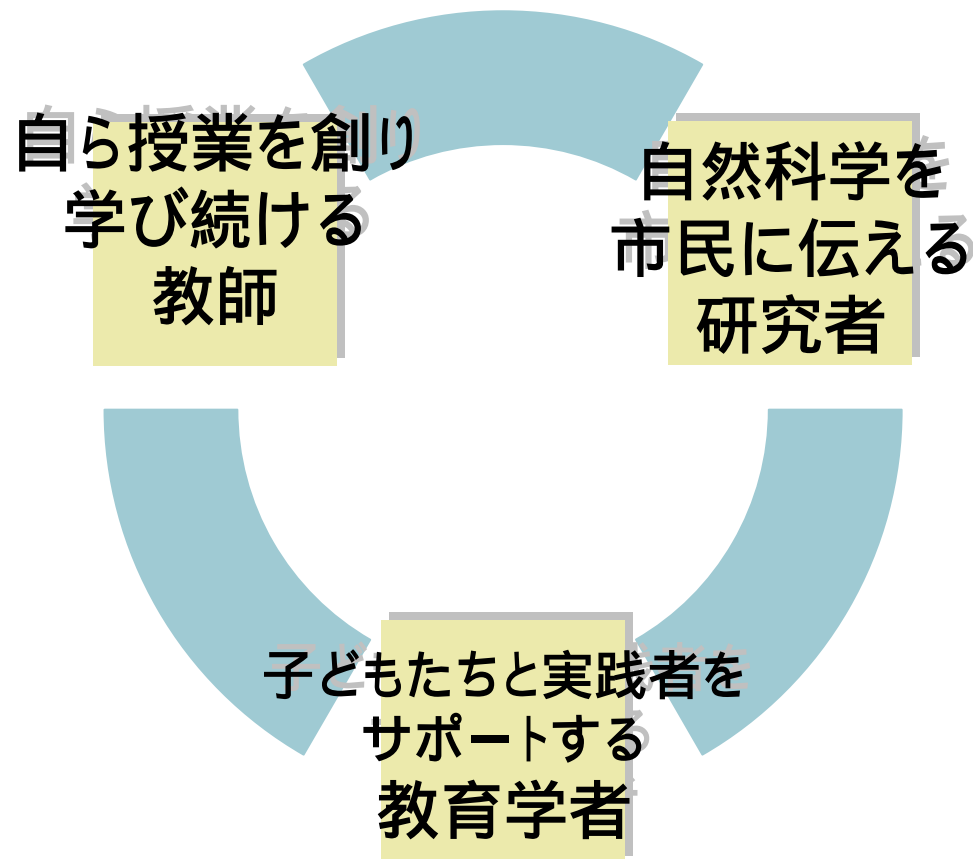
■コーディネート

- 学校文化と自然科学の橋渡し



教育学研究者としての専門性

“Collaboration”を通して



協同を通して、
自律した専門職が、自らの原点を再確認する

おわり



村瀬公胤

monchan@p.u-tokyo.ac.jp

基礎学力研究開発センター, 東京大学